

博士論文（要約）

現代中国語“给”の文法機能

——動詞の直前および動詞の直後に共起する“给”の意味と機能——

神 谷 智 幸

東京大学大学院 総合文化研究科 言語情報科学専攻

## 目 次

序章	1
第 1 部 “給 <sub>1</sub> ”の意味機能	
第 1 章 「非ヴォイス構文」における“給 <sub>1</sub> ”	13
第 1 節 はじめに	13
1.1 研究対象	13
1.2 問題提起	14
第 2 節 “給 <sub>1</sub> ”の分析	17
2.1 「省略説」について	17
2.2 “給 <sub>1</sub> ”の分類について	19
第 3 節 “給 <sub>1</sub> ”の現れる文型	24
3.1 本研究のコーパス調査と話者の視点	24
3.2 “是……的”文との共起	29
第 4 節 “給 <sub>1</sub> ”の意味機能	31
4.1 未然と已然による非対称性——述語の結果性	31
4.2 已然の事態を表す文における“給 <sub>1</sub> ”の表現機能——〈失敗〉と〈非難〉	36
第 5 節 まとめ	39
第 2 章 「有標ヴォイス構文」における“給 <sub>1</sub> ”	41
第 1 節 「執行使役文」と共起する“給 <sub>1</sub> ”	41
1.1 問題提起	41
1.2 執行使役文と“給 <sub>1</sub> ”が共起する環境	44
1.2.1 使用実態——柯航 2004 と本研究の調査	44
1.2.2 執行使役文のヴァリエーションと“給 <sub>1</sub> ”の共起について	45
1.3 「想定外の情報」や「意外性」を表出する文法手段	47
1.4 「執行使役文」と共起する“給 <sub>1</sub> ”の表現効果	54
第 2 節 「受影文（受身文）」と共起する“給 <sub>1</sub> ”	58
2.1 有標ヴォイス構文の対称性と非対称性	58
2.2 「放任使役文」と共起する“給 <sub>1</sub> ”	65
2.3 「受影文（受け身文）」と共起する“給 <sub>1</sub> ”の表現効果	71

第3章	“给”の「虚化」	75
第1節	先行研究における漢語方言から見た“给”の文法化現象	75
第2節	本研究の考察結果に基づく“给”の「虚化」	78
第2部	“给 <sub>2</sub> ”の意味機能	
第4章	「授与義動詞＋“给 <sub>2</sub> ”」を用いる構造の意味と制約 ——“送”と“送给 <sub>2</sub> ”の分布と機能差——	91
第1節	問題の所在	91
第2節	“送”と“送给 <sub>2</sub> ”の実例調査と分析	95
2.1	A型の分析	97
2.2	B型の分析	99
2.3	C型の分析	105
2.4	D型の分析	107
第3節	“送”と“送给 <sub>2</sub> ”の機能差	109
第4節	まとめ	120
第5章	「非授与義動詞＋“给 <sub>2</sub> ”」の構文的特徴と意味機能	123
第1節	はじめに	123
第2節	「非授与義動詞＋“给 <sub>2</sub> ”」が使用される環境	125
2.1	3つの構文環境	125
2.2	コンテキストからの分析	128
第3節	「非授与義動詞＋“给 <sub>2</sub> ”」における“给 <sub>2</sub> ”の意味機能	132
第4節	「非授与義動詞＋“给 <sub>2</sub> ”」が使用される構文論的・語用論的動機	139
第5節	まとめ	142
第6章	“V给 <sub>2</sub> ”の分類	145
第1節	先行研究における分類に対する本研究の見解	145
1.1	“V给 <sub>2</sub> ”の分類にあたって	145
1.2	朱德熙 1979 の分類	145
1.3	杉村 2007 の分類	147
1.4	张伯江 1999 の分類	148

1.5 本研究の立場と分類基準	149
第2節 “給 <sub>2</sub> ”と共起する動詞Vに関する本研究の新たな分類	152
2.1 事物授受型	152
2.2 事物移動型	156
2.3 事物入手型	164
2.4 本研究の分類案	167
2.5 行為実演型	170
終章 .....	175
参考文献一覧 .....	187

現代中国語の共通語において、“给 gěi”は「与える」という意味を表す授与動詞であり、また事物の受領者や動作行為の受益者を導いて「～に／～のために」という意味を表す前置詞としても機能する。さらに、“给”には文の述語動詞の直前および動詞の直後に共起する用法があり、動詞や前置詞の用法とは異なる特徴が見られる。しかし、こういった“给”の文法機能に関しては、現在でも辞書や研究論文における記述や分析が一致しているとは言えず、“给”に関する未解決の問題だと言って良い。

本論文は、こうした動詞の直前および動詞の直後に共起する“给”の意味と機能を明らかにすることを目指したものである。

論文は、本論（第1章～第6章）に序章と終章を加え、全8章から構成されている。本論部分を2部に分け、第1部（第1章～第3章）では、動詞の直前に共起する“给”（“给+V”、以下「给<sub>1</sub>」）について、第2部（第4章～第6章）では動詞の直後に共起する“给”（“V+给”、以下「给<sub>2</sub>」）について、考察を行なった。

序章では、議論の前提となる主要な研究成果と重要な概念について整理しつつ述べ、各章で扱う問題を示した。

第1部（「给<sub>1</sub>」の意味機能）で取り上げる“给<sub>1</sub>”に関して指摘されている特徴は、およそ次の4点にまとめることができる：①口語に用いられる；②“给”の有無は文の成立に関わらない；③「強調」を表す；④“把”や“被”などを用いた「有標ヴォイス構文」と共起する。本研究では、先行研究において、“给<sub>1</sub>」の議論や分析に混乱が見られた点および比較基準が不統一であった点を考慮し、考察対象となる実例を「非ヴォイス構文」と「有標ヴォイス構文」とに分け、“给<sub>1</sub>」が用いられる文環境を整理した上で分析を進めた。

第1章（「非ヴォイス構文」における“给<sub>1</sub>」）では、“给<sub>1</sub>」の使用実態の全貌を明らかにすべく、独自に収集した言語データを用いて実例を調査した。その結果、“给<sub>1</sub>」が用いられる文は動作対象が前置された「動作対象+動作主+“给<sub>1</sub> V”」という主題化構文の語順が極めて優勢であることが明らかになった [(1)]。

(1) 会 是 怎么 开起来 的 我 给 忘 了, ……。

会議 である どう 開く - 始まる PART 私 gei 忘れる - PERF+SFP

[会議がどのように始まったか、わたしは忘れてしまった。…]

(海岩《一场风花雪月的事》)

この調査結果に基づいて、前置詞の“给”を用いた、「動作主+V+動作対象」という語順の通常の対格構文 [(2)] と比較対照し、対格構文が行為を「起点」から叙述するのに対して、“给<sub>1</sub>」を用いるこの構文は、行為を「着点」から叙述するものであると分析した。

(2) 我 给 你 买了 一 本 书。

私 gei あなた 買う - PERF 1 CLF 本

[わたしがあなたに一冊本を買ってあげた。]

また、文の表す事態が「已然」か「未然」に分けて考察した。“给<sub>1</sub>」を用いる文が未然の事態を表すか、已然の事態を表すかにより、動作主に立つ名詞（句）への制約が異なり、已

然の事態を表す文における“给<sub>1</sub>”は「恩恵」だけでなく、「非恩恵（不如意）」も表すことを指摘した [(3)は未然の事態を表す例、(4)(5)(6)は已然の事態を表す例である]。

- (3) 妈, 电话。我 在 厕所 呢, 你 给 接 一下。  
母さん 電話 私 いる トイレ SFP あなた gei 出る ちょっと  
[母さん、電話。わたしはトイレにいるのよ、ちょっと出て。]

(电视剧《女人心事》第9集)

- (4) 李 师傅, 师母 的 药 我 给 熬好 了。  
李 親方 先生の奥さん PART 薬 私 gei 煎じる - よい - PERF+SFP  
[親方、奥様の薬はわたしがちゃんと煎じ（てさしあげ）ました。(恩恵)]

(海岩《舞者》)

- (5) 自行车 他 给 弄坏 了。  
自転車 彼 gei する - 壊れる - PERF+SFP  
[(その) 自転車は彼が壊してしまった。(非恩恵)]

- (6) 自行车 他 给 拆了  
自転車 彼 gei 解体する - PERF+SFP  
[(その) 自転車は、彼が解体してくれた(恩恵)]

[(その) 自転車は、彼が解体してしまった(非恩恵)] (《现代汉语虚词例释》210)

未然の事態を表す文に“给<sub>1</sub>”を用いるときは、これから起こるデキゴトとしてコントロールができるため、必ず「恩恵」を表す [(3)]。しかし、已然の事態を表す文に“给<sub>1</sub>”を用いるときは、結果からその事態を認定するため、「恩恵」[(4)] だけでなく、「非恩恵（不如意）」[(5)] にもなりえる。どちらの意味に傾くかは動詞（句）の語彙的意味や話者が事態の実現を願っているか否かにより、多義的になる場合もあることを指摘した [(6)]。考察の結果、“给<sub>1</sub>”の意味機能について、以下の結論を得た [(7)]。

- (7) ある動作行為の実現により、話者（または話者がシンパシーを寄せる人）が恩恵を被る（未然）／恩恵を被ったか逆に不如意な思いをした（已然）と話者が主観的に認定したことを表す。

第2章（「有標ヴォイス構文における“给<sub>1</sub>”」）では、考察範囲を拡げ、いわゆる使役や受け身に関わる“把”（「執行使役文」）や“被”（「受影文（受け身文）」）等における“给<sub>1</sub>”について考察を行なった。「執行使役文」における“给<sub>1</sub>”に関しては、従来、「損害（非恩恵）」や「意外」を表すという分析が提出されている。本論文は、事例調査を行ない、「損害（非恩恵）」を表す例 [(8)] に限らず、「損害（非恩恵）」を表すとは言えないような例 [(9)] も散見されることを指摘した。

- (8) 母亲回到家里, 失魂落魄, 喃喃自语, 老糊涂了  
把 钱 给 丢 了 把 醋 也 给 丢 了。  
ba 金 gei なくす - PERF ba 酢 も gei なくす - PERF+SFP

[母親は家に戻ると、落胆してぶつぶつとつぶやいた。すっかり惚けて、お金をな]

くしてしまい、酔も落としてしまった] (刘恒《贫嘴张大民的幸福生活》)

(9) 不知为什么我想哭，我用手捂着脸，

鼓着 全身 的 劲儿 把 眼泪 硬 给 咽到 肚子里。

こらえる-zhe 全身 PART 力 ba 涙 無理に gei 飲み込む - dao - 腹の中

[なぜだか泣きたくなってしまったので、手で顔を隠し、全身の力で踏ん張りながら、こみ上げてくる涙を無理やり呑みこんでお腹の中まで戻した]

(海岩《一场风花雪月的故事》)

「意外」については、現代中国語の「意外」に関わる語彙や構文を整理しつつ、“给<sub>i</sub>”を用いる文が必ずしも「意外」を表すわけではないことを指摘した。「執行使役文」に“给<sub>i</sub>”が現れる実例を詳しく観察すると、第1章の「非ヴォイス構文」における“给<sub>i</sub>”と表現効果がほぼ一致することから、“给<sub>i</sub>”はやはり「話者の主観的な認定」を表していると分析した。

「受影文 (受け身文)」(“被、叫、让”を動作主マーカーとして用いる文)においても、“给<sub>i</sub>”は「話者の主観的な認定」を表すという点で共通しているものの、“让”や“叫”に“给<sub>i</sub>”が共起する例のうち、2人称代名詞が文頭に立つ一部の例 [(10)] では、禁止表現が用いられており、事態の発生を妨げようと思えば妨げられる能力があると認識されている。この点において、無生物が文頭に立つ「受影文 (受け身文)」[(11)] とは異なっており、「放任使役文」と呼び区別する必要があることを述べた。「受影文 (受け身文)」における“给<sub>i</sub>”については、文の表す事態が「已然 (既実現)」であれば、一般に「非恩恵」を表すものの、事態全体の生起を語る場合 [(12)] などは、やや例外的になることがあることを指摘した。

(10) “以后那小子送的消息咱们可得好好分析分析，千万不能轻举妄动了，

你 别 让 他 给 毁 了。”

あなた bie rang 彼 gei 損なう - PERF+SFP

[これからあいつが届ける情報はきちんと分析しなければならない、軽率な行動は決して取らないように、きみは彼にずたぼろにされないように。] (海岩《永不瞑目》)

(11) 杯子 让 他 打碎 了。

コップ rang 彼 打つ - (こなごなに) 割れる - PERF+SFP

[コップは彼に (こなごなに) 割られた。] (朱德熙 1982:178-179)

(12) ……还有一位中年男士，手里拿着几张黑色的老式唱片，如获至宝。“这可都是经典啊，摆着看都有一种成就感，

终于 在 潘家园 让 我 给 找到 了!”

ついに ~で 潘家園 rang 私 gei 探す - 当てる - PERF+SFP

[もう一人の中年男性は、何枚かの黒いレコードを手を持ち、宝を手に入れたかのようなだった。これらは名盤です、ならべて見るだけで達成感があります、ようやく潘家園で私によって探し当てられました。] (人民日报海外版 2006年03月31日)

このように、第2章では「有標ヴォイス構文」においても、“给<sub>i</sub>”は依然として「話者の主観的認定」を表すと分析する一方で、ヴォイス構文の下位類においては、「恩恵」「非恩恵」

を表す状況がそれぞれどのように異なっているかについて指摘した。

第3章(「給」の「虚化」)では、先行研究の指摘を整理しつつ、共時的な観点から、「給」の「虚化」(意味の希薄化)について考察を行なった。「給<sub>1</sub>」を用いる文が表す事態が已然のとき、話者の視点が「着点」に変化しているというだけでなく、一種の「図 (figure) と地 (ground) の反転 (逆転)」が起こっているという分析を提出した。すなわち、「授与」という事象を起点から見れば、受け取り手の領域にモノが増えるという変化が起こるが、終点から「授与」を見ると、与え手においては自身の領域からモノを失うあるいはモノが減るという変化が起こっているという解釈である。このように考えることによって、ある特定の環境で述語動詞に「消失」・「損失」(「忘 [忘れる]」など)を表す動詞が多く見られるという現象を合理的に説明することができる。また、「給<sub>1</sub>」は、話者の主観的態度を表す成分として、前置詞よりも一層意味の希薄化が進んでいるが、依然として動詞「給」が有する授与義を抽象的なレベルにおいて保持しており、現行の中国語の品詞体系に収まらないことから、「(授受) 補助動詞」という新たな品詞を認定することを提案した。その上で、第1部の考察のまとめとして、共時的に見た動詞、前置詞、「給<sub>1</sub>」の虚化の段階を図にして示した。

第2部(「給<sub>2</sub>」の意味機能)では、第4章から第6章にかけて、従来、語彙の意味から分析されてきた“V 給<sub>2</sub>”について、新たに構文論的、語用論的観点から考察を行なった。

中国語は、英語と同様に間接目的語に受け取り手、直接目的語に(やりとりされる)事物をともない二重目的語構文を構成することができるのであるが、「授与義動詞」と「授与義動詞+“給<sub>2</sub>”」の両者がどちらも述語形式として併存する [(13)]。

- (13) a. 我      送给      你      一      盆      花儿  
私    贈る - gei - あなた    1      CLF    花
- b. 我      送      你      一      盆      花儿  
私    贈る      あなた    1      CLF    花

[私はあなたに1鉢の花をプレゼントする] (朱德熙 1979)

この両形式について、先行研究は意味的・機能的な違いを認めない立場(朱德熙 1979)と、意味的・機能的な違いを(何らかレベルで)認めるという立場に分かれている(今井 2004 や杉村 2007)。第4章(「授与義動詞+“給<sub>2</sub>”」を用いる構造の意味と制約)では、考察対象を“送 [贈る]”に絞り、この問題に対して、新たな視点から解決を試みた。本研究は、これまであまり言及されることのなかった間接目的語のみを取る実例(“送/送给+ヒト”)にも着目し、動詞単独の“送”と、直後に“給<sub>2</sub>”が共起した“送给<sub>2</sub>”が用いられる以下の4つの各形式について、コーパス調査により実例を分析した(間接目的語の受け取り手を表す人間名詞を「ヒト」、直接目的語の事物を表す名詞句を「モノ」と記す)。

- A 型: “送+ヒト (間接目的語)”      B 型: “送+ヒト+モノ (直接目的語)”  
C 型: “送给<sub>2</sub>+ヒト”      D 型: “送给<sub>2</sub>+ヒト+モノ”

調査の結果、B 型 [(14)] は、受け取り手に一般に人称代名詞が用いられており、先行研究指摘を検証した。A 型 [(15)] においても、人称代名詞が用いられる例が大半を占めている



ことが分かった。それに対して、C 型 [(16)] では、人称代名詞以外が全体の 6 割を占め、受け取り手の形式に制限は無く、コンテキストに初出の人物や長い修飾句をとともなう形式なども用いられることが判明した（枠線で囲んだ部分は動作対象を示している）。

- (14) 比如说：赵大嫂子的锁住，棉鞋还没有穿上，

咱们 就 送 她 鞋子，这样又好看，军属都乐意。”

私たち すぐ 贈る 彼女 靴

[……例えば、趙おばさんのところの鎖住は、綿入れの靴をまだ履けていないから、彼女には靴をあげよう、そうすれば見た目も良いし、現役軍人の家族たちもみな喜ぶでしょう。]（周立波《暴风骤雨》）

- (15) 我起初不会钓鱼，是王囡囡教我的。他叫他大伯买两副钓竿，

一副 送 我，一副 他 自己 用。

1 CLF 贈る 私 1 CLF 彼 自身 使う

[私は元々釣りができなかったのだが、王囡囡が教えてくれた。彼はおじさんに 2 本釣竿を買ってもらい、1 本を私にくれ、1 本を彼自身が使った。]

（丰子恺《忆儿时》）

- (16) 鲁迅表示，只将曹靖华译书的成本费 1 元收回，

其他 的 就 送给 这 位 爱 书 却又

その他 PART すぐ 贈る - gei - この CLF 愛する 本 であるのに

买 不 起 书 的 穷苦 青年。

買う - NEG - できない 本 PART 貧乏 青年

这次与鲁迅的“一面”之交给作者留下了永远难忘的印象。

[鲁迅先生は曹靖華訳書の原価 1 元のみを回収し、そのほかはこの本をこよなく愛しているが（お金が足りなくて）本を買えない貧乏青年にくれた。]

（《作家文摘》）

従来、B 型（“送”+ヒト+モノ）と D 型（“送给”+ヒト+モノ）の違いとして、D 型では、受け取り手に人称代名詞以外の名詞（固有名詞や普通名詞）が共起することが許されると指摘されている（e.g. “她送给尹小帆一幅古色古香的红漆镯子” [彼女は尹小帆にアンティークの堆朱のブレスレットをあげた]）。ただし、本研究の調査では、D 型においても、人称代名詞の用例が全体の 6 割以上を占めており、優勢であるという結果を得た [(17)]。

- (17) 假若一定问我，有什么值得写入历史的事情，我倒必须再提一提便宜坊的老王掌柜。

他 也 来 了， 并且 送给 我们 一对 猪蹄子。

彼 も 来る PERF しかも 贈る - gei - 私たち 1 CLF 豚足

[……彼もやってきて、しかも私たちに豚足を 1 組くれた]（老舍《茶馆》）

つまり、B 型と D 型において、“送”と“送给<sub>2</sub>”は対立的な関係や相補的な関係にあるのではなく、寧ろ受け取り手には一般に人称代名詞が現れるという〈授与〉の二重目的語構文の優勢的共通性を共有していると思われる。C 型（“送给<sub>2</sub>+ヒト”）には、さらに他には見ら

れない特徴が2点ある。一つ目は、B型「送+ヒト+モノ」における「モノ」は通常動作主の所有領域に属しているものでなければならないが、C型では他者の所有領域にあることが明示されている名詞句も伴うことができるという点である [(18)]。もう一点は、「送给<sub>2</sub>+ヒト」を用いる文において、受け取り手が動作行為の結果、事物が到達する人物を表しており、文全体に対して限界性 (telicity) を付与しているという点である [(19)]。

(18) 前几天村里的王喜死了，王喜是我家从前的佃户，比我大两岁，

他 死前 嘱咐 儿子 把 他的旧绸衣 送给 我，

彼 死ぬ前 言づける 息子 ba 彼 PART 古いシルクの服 贈る - gei - 私

他一直没忘记我从前是少爷，他是想让我死之前穿上绸衣风光风光。

[数日前に村の王喜が死んだ、王喜は我が家の昔の小作人で、私より2つ上だった。彼は生前息子に言づけて彼の古いシルクの服を私に贈った。彼は私が以前坊ちゃんであったことを片時も忘れていなかった。彼は私に死ぬ前にシルクを身にまとい、面目を施してほしいのだろう] (余华《活着》)

(19) 第二天 临行 前，班长 从 皮箱 中 取出 那双鞋，

二日目 出発 前 隊長 ～から 旅行鞆 中 取る - 出す その CLF 靴

看 了 看，摸 了 摸， 依依不舍 地 送给了 我。

見る - PERF - 見る なでる - PERF - なでる 名残惜しい PART 贈る - gei - PERF 私

我接过了他的担子，也照前任班长的样儿，再在那鞋外裹上了一层红绸布，并记下了自己的名字……

[次の日の出発前、隊長は旅行鞆からその靴を取り出し、見たり、なでたりしてから名残惜しそうに私にくれた。私が彼のバトンを受け取ってから、前任の隊長の姿に倣い、その靴に赤いシルクの布を巻き、自分の名前を記した。]

(《人民日报》1998年)

第4章の考察の結果、「送」と「送给<sub>2</sub>」の相違点は次の3点にまとめられる。相違点 $\alpha$ ：「送+ヒト」は「ヒト」の定性 (‘definiteness’) が高く、受け取り手は人称代名詞に限定される、「送给<sub>2</sub>+ヒト」はモノの定性が高く、受け取り手への形式的な制限は無い。相違点 $\beta$ ：「送给<sub>2</sub>」の動作対象は、動作主の所有領域に属する事物でなくともよい (動作主は、動作対象を直接コントロールする能力があればよい)。相違点 $\gamma$ ：「送给<sub>2</sub>+ヒト」は、結果性が明示され、限界性の付与が機能として加わる。C型においては、この相違点がすべて成立することからA型と明らかな差が見られる。しかし、D型 (「送给」+ヒト+モノ) の場合は、直接目的語が最後に立つ語順となり、相違点 $\alpha$ が成立しない。「送」と「送给<sub>2</sub>」の語彙的意味の差を越えて、〈授与〉型の二重目的語構文の制約が優先的に働き、共通のふるまいが増え、B型との差が見られなくなるのだと分析した。上述の先行研究の異なる二つの立場もこの「送」と「送给<sub>2</sub>」のA型とC型、B型とD型における相違点の増減から説明することが可能である。

第5章 (「非授与義動詞+「給<sub>2</sub>」の構文的特徴と意味機能) では、従来、意味上「給<sub>2</sub>」と結びつくことが難しいと指摘されてきた非授与義動詞 (取得義もしくは授与と関わらな

い動詞) からなる“V 给<sub>2</sub>” (e.g. “买 [買う] + 给<sub>2</sub>”・“做 [つくる] + 给<sub>2</sub>”) について、新たに構文環境やコンテキストを取り入れ考察した。

この種の“V 给<sub>2</sub>”については、二重目的語構文を構成することができないことが指摘されている [(20)(21)]。

(20) \*我 买给 他 一 本 书。

私 買う - gei - 彼 1 CLF 本

[私は彼に 1 冊本を買ってあげた]

(21) \*我 炒给 他 一 盘 鸡子儿。

私 炒める - gei - 彼 1 CLF 卵

[私は彼に 1 皿卵料理を作ってあげた] (上記 2 例は朱德熙 1979)

しかし、その形式が皆無というわけではなく、目的語を 1 つだけ伴う形式であれば小説やドラマなどで実例が散見される [(22)(23)]。

(22) 阿元记得这小飞机卡在树上的事，

那 是 儿子 过 生日 她 买给 儿子 的。

それ ~である 息子 祝う 誕生日 彼女 買う - gei - 息子 PART

[元さんはこの小さな飛行機のおもちゃが木に引っ掛かっていたことを覚えていた。それは息子の誕生日に彼女が息子に買ってあげたものだった]

(铁凝《七天》)

(23) 我儿子最爱吃的就是蛋炒饭，

我 很 想 学会 了

私 とても ~したい 学ぶ - できる PERF

然后 赶紧 回家 炒给 儿子 吃。

その後 急いで 帰宅する 炒める - gei - 息子 食べる

[息子の一番好きな食べ物が卵チャーハンなので、作り方を覚えたら急いで家に帰り、息子に作って食べさせてあげたい] (电视节目《星厨驾到》)

本研究では、コーパス調査に基づき統計した結果、「非授与義動詞+“给<sub>2</sub>”」は実例が一定数見られるだけでなく、使用される構文環境に大きく偏りがあることが明らかになった。主に以下の 3 つの特定の構文環境に用いられる [(24)(25)(26)]。

(24) 我 幼时 有 三 件 恩物， 是 父亲 买给 我 的。

私 幼い時 ある 3 CLF 恩物 ~である 父親 買う - gei - 私 PART

[私は幼い時 3 つの大事な恩物 (幼児教育における遊具) があった、父親が私に買ってくれたものだった。] (施蛰存《绕室旅行记》)

(25) 穿 我 去年 买 给你 的 那 件 黑色 的 套头衫 吧。

着る 私 去年 買う - gei - あなた PART あの CL 黒 PART プルオーバー SFP

[私が去年あなたに買ってあげたあの黒のプルオーバーを着たら。]

(芙蓉三变《非诚勿扰》)

(26) 西洋糕 则 多 是 老太太 叫住, 买给 她的小孙子 吃。

西洋パン なら 多く ~である おばあさん 呼ぶ - 止める 買う - gei - 彼女の孫 食べる

这玩意好消化, 不伤人, 下肚没多少东西。

[西洋パン (蒸しパン) の方はと言うと多くはおばあさんが呼び止め、買って自分の孫に食べさせるのだ。……] (汪曾祺《职业》)

一つ目 [(24)] は、「非授与義動詞+“給<sub>2</sub>”+NP」の後に、“的”をともない名詞化するものである (多くは“是”の目的語になる)。二つ目 [(25)] は、“的”の後ろに主名詞が置かれ、連体修飾句になるタイプである。三つ目 [(26)] は「非授与義動詞+“給<sub>2</sub>”+NP」の直後にさらに別の動詞をともない全体として、使役を表す構文に現れるものである (便宜上、それぞれ「名詞化」・「連体」・「使役」と呼ぶ)。同時に、「非授与義動詞+“給<sub>2</sub>”」の成立させる条件として、動作対象 (対格名詞句) が、コンテキストにおいて既知・既出の存在であり、また、情報伝達上、対象を生じせしめた具体的行為 (事物の入手方法) を言語化することが必要な状況にあるという発話環境が大きく関与することを指摘した。こういった“V 給<sub>2</sub>”は、動詞 V と「授与」の意味的・時間的關係の面での結びつきは弱い、構文論的手段と語用論的手段を連携して用いることで、それらの支えによって成立しているとも言えることができる。

第 6 章 (「“V 給<sub>2</sub>”の分類」) では、直後に“給<sub>2</sub>”が共起する動詞全般について、先行研究の分析の問題点を挙げつつ、本研究は、第 4 章で示した、間接目的語のみ取る形式 (“V+給<sub>2</sub>+ヒト”) と、二重目的語を取る形式 (“V+給<sub>2</sub>+ヒト+モノ”) に分ける手法を再び採用し、加えて「事象叙述」「属性叙述」という新たな基準に基づき、分類を行なった。具体的には「事象叙述」としては、執行使役文 [(27)(28)] に用いられるか否か、属性叙述 (的環境) としては、名詞化や連体修飾に用いられるか否か [(29)(30)] を判断基準として分類を行なった。

(27) 她 跑到 我们 面前, 把 鲜花 送给了 小刘。

彼女 走る - dao 私たち 目の前 ba 生花 贈る - gei - PERF 劉さん

这时, 周围的孩子们都围着我们笑。更使人意想不到的, 在场的有位卖花的女孩, 上前送给我们每人一朵玉兰花, 不肯收我们的钱, 真诚地表示她对我们的情谊。遗憾的是, 当时我们只顾感动, 竟忘了用照相机把这情景拍摄下来。

[……若い女性がこちらに向かって走ってくるのが見え、手には 1 本の花が握られていた。彼女は私たちの前まで駆け寄ると、その花を劉さんにあげた。]

(人民日报 1995 年 7 月)

(28) 父亲每次下班时, 都会给我们五个孩子带来一点小礼物。进了家门,

他 笑呵呵 地 把 公事包 扔给 母亲,

彼 ハハハと笑う PART ba ブリーフケース 投げる - gei - 母親

对着我们吹一声响亮的口哨说: “来吧, 孩子们, 猜猜今天带给你们什么。” ……

[父親は毎回仕事帰りに、いつも私たち 5 人の子どもにささやかなプレゼントを持

ってきてくれた。家に入ると、父はハハハと笑ってブリーフケースを母に放り投げ  
ると、私たちに向かって高らかに口笛を吹いて言った：「子どもたち、集まれ。さ  
て今日は何を持ってきたでしょう」……」（《读者》）

(29) “有些东西是不能标价的!你知道吗?”

这 紫砂茶壶 是 我 老伴 年轻 时 送给 我 的,  
これ 紫砂茶壶 である 私 連れ合い 若い とき 贈る - gei - 私 PART  
……”

〔値段が付けられないものもある！わかるか？この紫砂茶壺は婆さんが若いときに  
わしにくれたものだ。……〕（叶大春《三癮录》）

(30) 何北 属 富二代, 有 辆 吉普, 有 套 房子,  
何北 属する 金持ちの二代目 ある CLF ジープ ある CLF 家  
都 是 老爸 买给 他 的。  
すべて である 親父 買う - gei - 彼 PART

〔何北は「富二代（金持ちの二代目）」であり、ジープや家を持っている、それら  
はすべて父親が彼に買ってあげたものだ〕（常琳《北京青年》）

分類の結果、“給<sub>2</sub>”と共起する動詞 V は「事物移動型」「事物授受型」「事物入手型」「行為  
実演型」の 4 種に分けられると分析した。この動詞分類は本研究が新たに提唱したもので  
ある。各タイプの特性についても指摘した。

終章では、各章で行なった考察の結果を今後の課題を述べた。さらに、第 2 部の考察の  
まとめとして、現代中国語の文法体系における“給<sub>2</sub>”の統語論的・品詞論的な位置付けにつ  
いても検討した。小野 2017 で指摘されている「同賓構造」（「V1+N1+V2」のかたちで構  
成され、V1 の目的語である N1 が意味的に V2 の受け手でもある構造：e.g. “买烟抽 [タバ  
コを買って吸う]”）や「連動構造」に見られる動詞接辞の位置の可変性や否定の焦点の可  
変性が、本研究で取り上げた“V+給<sub>2</sub>”においても見られる場合があることを根拠として、  
本研究では、“V+給<sub>2</sub>”は継起性や行為の関与性などに差はあるものの、すべて連動構造の  
一種に属するものだという新たな分析を提示した。また、動詞の直後に共起する“給<sub>2</sub>”は、  
動詞の直前に共起する“給<sub>1</sub>”と比べ動詞性を色濃く残していることから、“給<sub>2</sub>”の「虚化」の  
程度は動詞と前置詞の間に位置付けられると結論付けた。

本研究の考察の結果、“給”は動詞の直前と動詞の直後という統語的位置によって、文法機  
能と意味が大きく異なることが明らかとなった。また、考察の中で、“給<sub>1</sub>”と“給<sub>2</sub>”は決して  
任意（optional）な成分ではないことを併せて指摘した。

最後に授与動詞、前置詞の機能と、“給<sub>1</sub>”と“給<sub>2</sub>”の繋がりについて、共時的に見た文法化  
（虚化）の段階という観点から図にまとめて示し、“給”の統括的な記述を行なった。

なお、本博士論文は 5 年以内に出版予定である。

## 参考文献一覧

[日本語]

- 相原茂 1980.「中国語動詞の特異性と普遍性—— 一見相反する意味を持つ動詞を例として」、  
『中国文化』38号:15-35、漢文学会会報)
- 鄭聖汝 2009.「非意図的事象と他動詞構文——「所有」それとも「責任」か、それとも?」、  
『日本語文法』第9巻2号:53-70、日本語文法学会（発売：くろしお出版）
- 古川裕 1997.「数量詞限定名詞句の認知文法—指示物の〈顕著性〉と名詞句の〈有標性〉」、  
『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』、東方書店:237-266
- 池田晋 2005.「“来”の代動詞的用法とダイクシス」、『中国語学』252号:144-163
- 今井俊彦 2003.「中国語における数量詞の意味と機能——二重目的語構文を中心として」、  
『中国語学』250号:103-121
- 今井俊彦 2004.「間接目的語の「領域参照点」機能」、『現代中国語研究』第6期:78-88
- 今井俊彦 2009.「現代中国語の二重目的語構文とヴォイス構文の類似性」、『日本中国語学会  
第59回全国大会予稿集』:188-192
- 井上優 2011.「日本語・韓国語・中国語の「動詞+授与動詞」」、『日本語学』第30巻11号:  
38-48、明治書院
- 影山太郎 2008.「属性叙述と語形成」、益岡隆志編『叙述類型論』:21-43、くろしお出版
- 影山太郎・沈力 2012.「付加詞主語構文の属性叙述機能」、『日中言語学の新展望2 意味と  
構文』:27-65、くろしお出版
- 神尾昭雄 1990.『情報のなわ張り理論』、東京:大修館書店
- 神谷智幸 2012.「現代中国語における“給 V”構造の意味と機能」、『言語情報科学』第  
10号:1-17、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻
- 神谷智幸 2017.「「非授与義動詞+“給”」の構文的特徴と意味機能」、『楊凱榮教授還暦記念  
論文集 中日言語研究論叢』:539-556、朝日出版社
- 加納光 1996.「現代中国語の受身表現に用いられる‘給’の談話上における機能」、『四日市  
大学論集』第8巻第2号:252-271
- 木村英樹 1976.「『吃了大餅』と『开了大門』—現代中国語の完了相動賓構造に関わる一つ  
の問題」、『アジア・アフリカ語の計数研究』6:43-50、東京外国語大学アジア・  
アフリカ言語文化研究所
- 木村英樹 1981.「被動と「結果」」、『日本語と中国語の対照研究』第5号:27-46、大阪大学

外国語大学中国語研究室内 日中語対照研究会

- 木村英樹 1983. 「指示と方位——『他那本书』の構造をめぐって」、『伊地智善継・辻本春彦両教授退官記念 中国語学・文学論文集』:292-317、東方書店
- 木村英樹 1992. 「BEI 受け身文の意味と構造」、『中国語』 389 号:10-15、内山書店
- 木村英樹 1996. 『中国語ははじめの一步』、筑摩書房
- 木村英樹 2000. 「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」、『中国語学』 247 号:19-39
- 木村英樹 2002. 「Z の所有領域」、『中国語』 506 号:65、内山書店
- 木村英樹 2008. 「北京語授与動詞“给”の文法化」、『ヴォイスの対照研究—東アジア諸語からの視点』:93-107、くろしお出版
- 木村英樹 2012. 『中国語文法の意味とかたち——「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究——』、白帝社
- 木村英樹 2014. 「“指称”の機能——概念、実体および有標化の観点から」、『中国語学』 261 号:64-83
- 木村英樹・楊凱榮 2008. 「授与と受動のネットワーク - 中国語授与動詞の文法化に関する方言比較文法試論 - 」、『ヴォイスの対照研究—東アジア諸語からの視点』:65-91、くろしお出版
- 金水敏 1998. 「代名詞と人称」、北原保雄編『講座日本語と日本語教育 4 日本語の文法・文体 (上)』:98-116、明治書院
- 金水敏 2004. 「文脈的結果状態に基づく日本語助動詞の意味記述」、影山太郎・岸本秀樹編『日本語の分析と言語類型——柴谷方良教授還暦記念論文集』:47-56、くろしお出版
- 古賀裕章 2008. 「てくる」のヴォイスに関連する機能、森雄一・西村義樹・山田進・米山三明編『ことばのダイナミズム』:241-257、くろしお出版
- 小嶋美由紀 2009. 「拡張二重目的語構文“玩儿他个痛快”の成立動機とメカニズム」、『中国語学』 256 号:122-140
- 小嶋美由紀 2010. 「上海語と粵語における再述代名詞と非現実ムード」、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻編『言語情報科学』第 8 号:33-49
- 近藤泰弘 1986. 「主観表現の体系」、『国文目白』第 25 号:88-97
- 久野暉 1978. 『談話の文法』、大修館書店
- 林璋・佐々木勲人・徐萍飛 2002. 『東南方言比較文法研究——寧波語・福州語・厦門語の分

析——』、好文出版

林立梅 2010.『中国語“X 给 YVP”構文の意味ネットワークの形成についての認知言語学的研究』東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士学位論文

益岡隆志 1987.『命題の文法』、くろしお出版

益岡隆志 2000.『日本語文法の諸相』、くろしお出版

益岡隆志 2001.「日本語における授受動詞と恩恵性」、『言語』30 巻 5 号:26-32、大修館書店

益岡隆志 2004.「日本語の主題—叙述の類型の観点から—」、益岡隆志編『主題の対照』:3-17、くろしお出版

益岡隆志 2007.「利害と主観性」、『日本語モダリティ探究』第 4 章所収:47-59、くろしお出版

益岡隆志 2008.「叙述類型論に向けて」、益岡隆志編『叙述類型論』:3-18、くろしお出版

益岡隆志 2012.「受動文と恩恵文が会合するとき——日本語研究から」、《日语学习与研究》第 1 期:1-9

松本曜 1998.「空間移動の言語表現とその拡張」、田中茂範・松本曜 1998 日英語比較選書 6『空間と移動の表現』、研究社

松本曜編 2017.『移動表現の類型論』、くろしお出版

三上章 1972.『現代語法序説』、くろしお出版

三木夏華 2002.「北部呉語における授受構文にみられる介詞の史的变化」、『中国語学』249 号:110-128

中川正之 1973.「二重目的語構文の直接目的語における数量限定語について」、『中国語学』218 号:19-22

中川正之 1987.「中国語と日本語の形容詞——意図と結果」、『日本語学』10 月号:49-57、明治書院

中川正之 1992.「類型論からみた中国語・日本語・英語」、(合冊本 3-21)、大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』(上) 所収、くろしお出版

西村義樹 1998.「行為者と使役構文」、日英語比較選書 5『構文と事象構造』:108-203、研究社

西村義樹 2002.「換喩と文法現象」、『認知言語学 I : 事象構造』:285-311、東京大学出版会

西村義樹・野矢茂樹 2014『言語学の教室——哲学者と学ぶ言語学』、中公新書、中央公論新社



- 大河内康憲 1974.「被動が成立する基礎」、『中国語学』220号(『中国語の諸相』所収:115-134、白帝社、1997年)
- 大河内康憲 1982.「ヴォイス：中国語の受身」、寺村秀夫他編『講座日本語学 10 外国語との対照 I』:319-332、明治書院
- 小野秀樹 2001.「“的”の『モノ化』機能——「照応」と“是……的”文をめぐる——」、『現代中国語研究』第3期(小野秀樹『統辞論における中国語名詞句の意味と機能』所収:31-72、白帝社、2008年)
- 小野秀樹 2016.「構文論と文環境から見た汎用量詞“个”の非計数機能」、『汉语与汉语教学研究』第7号:3-15
- 小野秀樹 2017.「中国語の連動構造における動詞句の意味的連鎖——いわゆる「手段」と「目的」の関係について」、『楊凱榮教授還暦記念論文集 中日言語研究論叢』:279-297、朝日出版社
- 尾上圭介 2003.「ラレル文の多義性と主語」、『言語』32巻4号:34-41、東京:大修館書店
- 太田辰夫 1956.「「給」について」、『神戸外大論叢』第7巻1号-3号:177-197
- 太田辰夫 2013.『中国語歴史文法(新装改版)』、京都:朋友書店
- ルチラ・パリハワダナ 2005.「長時間経過の末の予見の実現を表す副詞「やっと」「ようやく」「ついに」「とうとう」について」、『金沢大学留学生センター紀要』第8号:29-50
- 坂原茂 2003.「ヴォイス現象の概観」、『言語』32巻4号:26-33、大修館書店
- 佐々木勲人 1996.「“被…給”と“把…给”——強調の“给”再考——」、『中国語学』243号:65-74
- 佐々木勲人 1997.「中国語における使役と受動の曖昧性」、『ヴォイスに関する比較言語学的研究』:133-160、三修社
- 佐々木勲人 1999.「南方方言における GIVE の処置文」中国語学 246号:207-216
- 佐々木勲人 2002.「中国語における使役と受益——比較方言文法の観点から——」、筑波大学現代言語学研究会編『事象と言語形式』:177-197、三修社
- 佐々木勲人 2007.「東南方言における授与と受動」、山田敬三先生古稀記念論集刊行会編『南腔北調論集：中国文化の伝統と現代：山田敬三先生古稀記念論集』:989-1005、東方書店
- 澤田淳 2005.「日本語の受益構文と「主体化」——「～てやる」構文と「～てくれる」構文の比較——」、『日本認知言語学会論文集』5号:441-450、日本認知言語学会

- 澤田淳 2006.「日本語他動詞構文の事象構造に関する認知言語学的考察——非動作主 - 主語の他動詞構文を中心に」、『言語科学論集』12号:19-34
- 澤田淳 2011.「日本語のダイクシス表現と視点、主観性」、澤田治美編『ひつじ意味論講座5 主観性と主体性』:165-192、ひつじ書房
- 澤田淳 2014.「日本語の授与動詞構文の構文のパターンの類型化——他言語の比較対照と合わせて——」、『言語研究』145:27-46
- 柴田奈津美 2008.「“明白”と“弄明白”の相違について」、『言語情報科学』第6号:135-154、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻
- 柴谷方良 1982.「ヴォイス：日本語・英語」、寺村秀夫他編『講座日本語学10 外国語との対照Ⅰ』:256-279、明治書院
- 柴谷方良 2000.「ヴォイス」、仁田義雄・村木新次郎・柴谷方良・矢澤真人著『日本語の文法1 文法の骨格』第3章所収:119-186、岩波書店
- 杉村博文 1982.「「被動と『結果』」拾遺」、『日本語と中国語の対照研究』第7号:58-82、大阪外国語大学中国語研究室内 日中語対照研究会
- 杉村博文 1984.「処置と遭遇——“把”構文再攷」、『中国語学』231号:11-24
- 杉村博文 1992.「遭遇と達成——中国語被動文の感情的色彩——」、45-62（合本277-294）、大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』（下）所収、くろしお出版
- 杉村博文 1994.『中国語文法教室』、大修館書店
- 杉村博文 2001.「目上の人に“送你”は失礼？」499号、『中国語』:66、内山書店
- 杉村博文 2007.「中国語授与構文のシンタクス」、『大阪外国語大学論集』第35号:65-96
- 鈴木智美 2008.「事態に対する話者の期待と感情・評価的意味—理想認知モデルからの考察」、『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』34:27-42
- 関光世 2001.「“V 给”文の意味特徴に関する考察」、『中国語学』248号:153-167
- 田窪行則 1990.「ダイクシスと談話構造」、近藤達夫編『講座日本語と日本語教育12 言語学要説（下）』:127-147、明治書院
- 田中智子 2001.「「给」使役文について」、東京大学言語情報科学研究会編『言語情報科学研究』第6号:135-156
- 坪井栄治郎 2002.「受影性と受身」、西村義樹編『認知言語学Ⅰ：事象構造』:63-86、東京大学出版会
- 坪井栄治郎 2003.「受影性と他動性」、『言語』32巻4号:50-55、東京：大修館書店

- 寺村秀夫 1982.『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』、東京：くろしお出版
- 宇都健夫 2008.「逆接の「倒」再考」、『東京大学中国語中国文学研究室紀要』第11号：7-29
- 鷺尾龍一 1997.「他動性とヴォイスの体系」、鷺尾龍一・三原健一著、日英語比較選書7『ヴォイスとアスペクト』：2-106、研究社
- 山田忠司 1998.「機能語“給”の用法について—老舍作品をコーパスとして—」、『中国言語文化論叢』第2集：55-79
- 山田敏弘 2004.『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』、明治書院
- 山田敏弘 2006.「文法カテゴリーとしての「方向性」とその談話機能」、益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編『日本語文法の新地平3 複文・談話編』：119-135
- 楊凱榮 1989.『日本語と中国語の使役に関する対照研究』、くろしお出版

[中国語]

- 北京中文系 1955・1957 級語言班編 1982.《現代漢語虛詞例釋》：206-210、商務印書館
- 鄧思穎 2003.《漢語方言語法的參數理論》、北京大學出版社
- 方經民 2004.〈《金瓶梅詞話》和近代漢語被動式的发展〉、『現代中國語研究』第6期：6-14
- 龔千炎 1983.〈由“V 给”引起的兼語句及其变化〉、《中國語文》第4期：241-248
- 古川裕 2000.〈关于“为”类词的认知解释〉、《語法研究与探索（十）》：31-48、商務印書館
- 古川裕 2002.〈〈起点〉指向和〈终点〉指向的不对称性及其认知解释〉、《世界漢語教學》第3期：49-58
- 郭銳 2003.〈“把字句”的语义构造与论元结构〉、《語言學論叢》第二十八輯：152-167、商務印書館
- 黃蓓 2016.〈作为主观性标记的“给”——兼论句法标记说的不足〉、《語言科學》第4期：377-390
- 柯航 2004.〈“把……给 VP”句式的历时考察〉、華中師範大學碩士學位論文
- 寇鑫・袁毓林 2018.〈“给 VP”结构的主观性分析〉、《語言科學》第1期：35-48
- 李炜 2004.〈加强处置/被动语势的助词“给”〉、《語言教學与研究》第1期：55-61
- 李宇明・陳前瑞 2005.《北京話“给”字被動句的地位及历史发展》、《方言》第4期：289-297
- 劉丹青 2001.〈漢語給予類雙及物结构的类型学考察〉、《中國語文》第5期：387-398
- 劉丹青 2002.〈漢語中的框式介詞〉、《當代語言學》第4期：241-253

- 刘月华·潘文娱·故■（韦+华）2004.《实用现代汉语语法（增订本）》、北京:商务印书馆
- 卢建 2003.〈影响予夺不明的双宾句语义理解的因素〉、《中国语文》第3期:399-409
- 卢建 2017.《现代汉语双及物结构式研究》、商务印书馆
- 吕叔湘主编 1999.《现代汉语八百词（增订本）》、北京:商务印书馆
- 马庆株 1983.〈现代汉语的双宾结构〉、《语言学论丛 第十辑》:166-196
- 杉村博文 1999.〈“的”字结构、承指与分类〉、江蓝生·侯精一主编《汉语现状与历史研究》:47-66、  
中国社会科学出版社
- 杉村博文 2002.〈论现代汉语“把”字句“把”的宾语带量词“个”〉、《世界汉语教学》第1期:18-27
- 杉村博文 2016.〈“意外”在现代汉语句法中的表现〉、第46回中日理论语言学会、2016年7月24日発表スライド資料（最終アクセス日 2019年2月3日）  
([https://www1.doshisha.ac.jp/~cjtl210/data1/46\\_sugimura.pdf](https://www1.doshisha.ac.jp/~cjtl210/data1/46_sugimura.pdf))
- 邵敬敏 2009.〈从“V给”的类化看语义的决定性原则〉、《语言教学与研究》第6期:1-8
- 沈家煊 1999.〈“在”字句和“给”字句〉、《中国语文》第2期:94-102
- 沈家煊 2001.〈语言的“主观性”和“主观化”〉、《外语教学与研究》第4期:268-275
- 沈家煊 2002.〈如何处置“处置式—论把字句的主观性”〉、《中国语文》第5期、387-399
- 沈家煊 2010.〈如何解决“补语”问题〉、《世界汉语教学》第4期:435-445
- 沈明 2002.〈太原话的“给”〉、《方言》第2期:108-116
- 沈阳·司马翎 2010.〈句法结构标记“给”与动词结构的衍生关系〉、《中国语文》第3期:222-237
- 苏俊波 2008.〈VP前的“给”及其方言类型比较〉、《汉语学报》第2期:69-77
- 王还 1957.《“把”字句和“被”字句》、新知识出版社（1984年重版、上海教育出版社）
- 王彦杰 2001.〈“把……给V”句式助词“给”的使用条件和表达功能〉、《语言教学与研究》第2期:64-70
- 王力 1943.《中国现代语法》、北京:商务出版社（中国文库 第5辑、2011年）
- 温锁林·范群 2006.〈现代汉语口语中自然焦点标记“给”〉、《中国语文》第1期:19-25
- 吴福祥 2004.〈试说“X不比Y·Z”的语用功能〉、《中国语文》第3期:222-231
- 项开喜 2006.〈“制止”与“防止”:“别+VP”格式的句式语义〉、《语言教学与研究》第2期:48-56
- 项开喜 2011.〈使成兼表被动现象的多角度考察〉、《世界汉语教学》第3期:291-304
- 肖治野·沈家煊 2009.〈“了<sub>2</sub>”的行、知、言三域〉、《中国语文》第6期:518-527

- 徐丹 1992. 〈北京话中的语法标记词“给”〉、《方言》第1期、54-60
- 荀恩东·饶高琦·肖晓悦·臧娇娇 2016. 〈大数据背景下 BCC 语料库的研制〉、《语料库语言学》第1期:93-110、URL:<http://bcc.blcu.edu.cn> [現代中国語データ約 150 億字]
- 延俊荣 2005. 〈“给”与“V 给”不对称的实证研究〉、《语言研究》第1期:26-33
- 杨凯荣 2016. 〈论上海话的使役、被动标记〉、《华东师范大学学报》:96-103
- 詹卫东·郭锐·湛贻荣 2003. 〈北京大学中国语言学研究 CCL 语料库〉、  
URL: [http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus) [現代中国語データ約 5.8 億字]
- 张伯江 1999. 〈现代汉语双及物结构式〉、《中国语文》第3期:175-184
- 张伯江 2001. 〈被字句和把字句的对称与不对称〉、《中国语文》第6期:519-524
- 张伯江 2006. 〈关于“索取类双宾语”〉、《语言学研究论丛》第三十三集:298-311
- 张伯江 2007. 《从施受关系到句式语义》、商务印书馆
- 张伯江 2013. 〈近、現代漢語裡“給+VP”的形成〉、651-663、Breaking Down the Barriers:  
Interdisciplinary Studies in Chinese Linguistics and Beyond、Language and Linguistics  
Monograph Series 50 Editor: Guangshun Cao、 Hilary Chappell 、 Redouane Djamouri  
and Thekla Wiebusch
- 张国宪 2003. 〈汉语双宾语结构式的语法化渠道与元句式语义〉、『現代中国語研究』第5期:32-45
- 张国宪 2006. 〈补语的句位义探索——关于非可控义〉、日中対照言語学会編『中国語の補語』:  
158-179、白帝社
- 张国宪·卢建 2010. 〈“在+处所”状态构式的事件表述与语篇功能〉、《中国语文》第6期:483-495
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2005. 《现代汉语词典(第5版)》、商务印书馆
- 朱德熙 1979. 〈与动词“给”相关的句法问题〉、《方言》第2期(又收于《朱德熙文集》第二  
卷:231-247、商务印书馆、1999年)
- 朱德熙 1982. 《语法讲义》、北京:商务印书馆
- 朱德熙 1983. 〈包含动词“给”的复杂形式〉、《中国语文》第3期(又收于《朱德熙文集》第  
二卷、商务印书馆:248-258、1999年)

[英語]

- Chirkova Ekaterina. 2003. *In search of time in Peking Mandarin*、Leiden: CNWS Publications
- Chirkova Katia. 2008. Gěi ‘give’ in Beijing and beyond、Cahiers de Linguistique-Asie  
Orientale 37: 3-42

- Fillmore Charles.J.1982 Frame Semantics.In Linguistic Society of Korea(ed.)*Linguistics in the morning calm*.Seoul:Hansin.111-137
- Goldberg Adele E.1995.*Constructions:A Construction Grammar Approach to Argument Structure*  
The University of Chicago Press. (河上誓作・早瀬尚子・谷口一美・堀田優子(訳)、  
『構文文法論：英語構文への認知的アプローチ』、研究社、2001 年)
- Hopper Paul.J.&Thompson.Sandra.A1982.Transitivity in Grammar and discourse.  
*Language*.56:251-299
- Kimura Hideki.1984.On The Two Functions of The Directional Complements ‘lai’ and ‘qu’ in  
Mandarin.*Journal of Chinese Linguistics*、Vol12、No.2:262-297
- Newman John.1996. *Give:A Cognitive Linguistics Study*.Cognitive Linguistics Research 7.  
Berlin:Mouton de Gruyter.
- Langacker Ronald W.1990. Subjectification.*Cognitive Linguistics*1-1:5-38 (*Concept, Image, and Symbol:The Cognitive Basis of Grammar*.Cognitive Linguistics Research 1:315-342.  
Berlin:Mouton de Gruyter.)
- Langacker Ronald W.1998. On subjectification and grammaticization.In *Discourse and Cognition:Bridging the gap*、Jean-Pierre Koenig(eds):71-89.Stanford:CSLI Publications.
- Leech Geoffrey N.1983. *Principles of Pragmatics*. London:Longman. (池上嘉彦・河上誓作(訳)、  
『語用論』、紀伊国屋書店：東京、1987 年)
- Levinson Stephen C.1983. *Pragmatics*[Cambridge textbooks]、Cambridge University Press.
- Lindsay Whaley.1997.*Introduction to Typology:The Unity and Diversity of Language*、Thousand  
Oaks, CA:Sage Publications (大堀壽夫・古賀裕章・山泉実訳『言語類型論入門—言  
語の普遍性と多様性』岩波書店、2006 年)
- Lyons John.1977. *Semantics 2*.Cambridge:Cambridge University Press.
- Shibatani Masayoshi1985.Passives and Related Construtins: A Prototype Analysis、*Language*、  
Vol.61、No.4:821-848
- Smith Yamashita Tomoko.1998. How ‘give’ and ‘receive’ provide structure for more abstract  
notions:The case of benefactives、adversatives、causatives、and passives.*BLS*24:219-231
- Sweetser Eve.1990.*From Etymology to Pragmatics:Metaphorical and Cultural Aspects of Semantic  
Structure*.Cambridge:Cambridge University Press (澤田治美訳『認知意味論の展開——  
語源学から語用論まで』、研究社出版、2000 年)